

CRMate (シーアールメイト) 導入事例

農林水産省 様

農林水産省初のクラウド導入で 業務効率化を図る

農林水産省では、平成23年度から環境負荷軽減に取り組む酪農家に対し支援を行う「酪農環境負荷軽減支援事業」をスタートさせました。事業では、参加を希望する酪農家が参加申込書に必要事項を記入し都道府県協議会(農協へ委託する場合も含む。以下、協議会)に提出。書類は協議会から各組織を経由し、地方農政局での承認を得て、国から酪農家に奨励金が直接交付されます。この事業の一連の仕組みに、SaaS型アプリケーションサービス「CRMate(シーアールメイト)／お客様接点力」(以下、CRMate)を活用した「酪農環境負荷軽減支援事業情報管理システム」を導入。関係機関との連携や業務の大幅な効率化を実現しました。

畜産・酪農家が将来にわたって安定的に経営を持続できる環境を整備するために、農林水産省では様々な支援事業を行っている。「酪農環境負荷軽減支援事業」もそのひとつである。これまで実施してきた事業では、申込書類がいくつもの組織を経由するなど処理が複雑化しており、効率化が強く求められていた。いかにコストや人手をかけずに、業務を迅速化できるか。そして、個人情報などセキュリティの確保をいかに図るか。今回の事業実施にあたり、こうした課題を解決する仕組みとして選ばれたのが、クラウドのひとつSaaS*1型サービスだったのである。

*1 SaaS: ソフトウェア・アズ・ア・サービス (Software as a Service)。インターネットを通じてソフトウェア機能を提供するサービス。

環境負荷軽減に取り組む酪農家に対して支援

環境問題への関心の高まりなどを背景に、酪農に関しても環境負荷軽減に配慮した経営への転換が求められている。

「酪農環境負荷軽減支援事業は、家畜排せつ物を適正に還元できる飼料用の作付地を持っている酪農家が、環境負荷軽減に効果のある一定の取組を

行った場合に、奨励金を交付するというものです。環境負荷の軽減を進めてもらうと同時に、酪農経営を安定的に継続できるよう支援することが大きな目的になっています」と、事業の中心的な役割を担う畜産企画課 畜産環境・経営安定対策室 課長補佐の武田哲夫氏は特徴をそう語る。



生産局 畜産部 畜産企画課
畜産環境・経営安定対策室 課長補佐
武田 哲夫 様

申込みから奨励金交付までの一元的なシステム化を検討

事業では、まず参加を希望する酪農家が参加申込書を協議会に提出し、その後環境負荷軽減の取組を行う。具体的な取組には「堆肥の適正還元の実施」「無化学肥料栽培又は無農薬栽培の実施」「放牧の実施」等いくつかの項目があり、それぞれポイントが付与されている。その中から一定以上のポイントに

なるよう選んで実践するのである。

「各協議会の窓口へ提出された参加申込書は、地域センターを経由し、最終的に全国9ブロックの地方農政局に集められます。取組実施後に承認を得た各酪農家には、国から直接、奨励金が交付されることになります。国からの奨励金交付は、財務省が管轄する国の官庁会計システム(ADAMS II)を利用して行います」と、畜産企画課 畜産環境・経営安定対策室 環境保全係長の須田芳人氏は事業の仕組みを説明する。

平成18年度から22年度までは「酪農飼料基盤拡大推進事業」及び「資源循環型酪農推進事業」という別の事業が行われていたのだが、そのときの奨励金はいくつかの組織を経由し、農協から農家に交付される仕組みになっていた。しかし平成23年度に向けた事業の見直しを始めるにあたって、何段階にもまたがっていた奨励金交付の仕組みを効率化するため、国から奨励金を直接交付する形へと改めることになった。そこで検討されたのがシステムの導入だったのである。

時間と手間のかかるExcelでの手作業を効率化したい

従来は紙の申込書を段階的に取りまとめていき、最終的にExcelに手入力し、管理していた。

「これまでの問題点は、時間と手間が非常にかかるということです。これを効率化したいというのがシステム化の一番の狙いでした」(武田氏)。

また、今回は国から奨励金を直接交付するので、ADAMS II とシステムを連携させる必要があった。奨励金の支給額を確定するために、国内のすべての牛を登録管理している独立行政法人家畜改良センターの個体識別情報システムと連携し、すべての事業参加者の経産牛*2の頭数確認ができることも求められていた。

年度内に奨励金の交付を行うためには、酪農家には4月～6月の間に参加申込みをしてもらう必要がある。そして、承認が降りたらすぐに申込時の実践計画に基づき環境負荷軽減の取組を開始。その後、協議会による現地確認も行わなければならない。

「とにかく早急にシステムを稼働したいという事

情がありました。通常のシステム開発では、構築するまでに数か月から半年近くを費やしてしまいます。しかも、各拠点でサーバやネットワークを整備するなど投資コストもかかります」(武田氏)。

できるだけ導入期間を短縮し、投資コストも抑えたい。こうしたことから、今回のシステムではクラウドの活用を考えたのだと言う。

*2 出産を経験した牛のこと。

システムの第一条件はセキュリティの確保

入札の結果、富士通がシステムを受注。2011年6月1日に正式な契約を締結し、CRMateの導入作業が始まった。まず第1弾として、6月23日に申込情報管理のための仕組みが稼働。7月末に第2弾、12月に第3弾としてADAMS II との連携を実現するという3段階でシステムを作り上げた。導入作業開始から第1弾の稼働までは3週間あまりの短期間で進んだということになる。

「今までならシステムを使うためにアプリケーションのCD-ROMなどを配布して、インストールをお願いしないといけませんでした。クラウドの場合、インターネット環境があればすぐに始められ、誰でも使えるので、非常に助かりました。また、セルフカスタマイズが容易で、年度途中での項目変更にも、開発を依頼する手間をかけず、短期間で柔軟に対応できるのは便利だと思いました」(須田氏)。

農林水産省の通常業務でクラウドの仕組みを使うのは今回が初めてのケース。しかも、今回の支援事業では、酪農家の氏名や住所、口座番号など個人情報の記載もあるだけに、不安はなかったのだろうか。

「システム化の第一条件がまずセキュリティでした。システムが使えるとか、使えない以前の大き



生産局 畜産部 畜産企画課
畜産環境・経営安定対策室 環境保全係長
須田 芳人 様

国の官庁会計システム等との各種連携により、酪農家への奨励金交付の円滑な運用を実現

な問題で、それがあって初めてシステム化に踏み切れると思っていました。当初はクラウドに不安も感じましたが、これまでのように全国それぞれの組織でデータを管理するよりは、堅牢な富士通データセンターか所で管理する方が、セキュリティが保てる。その方がいいのではと考えるようになりました」(武田氏)。

官庁会計システムとの連携では富士通のSEが専門的なサポートを行う

導入で最も神経を使ったのが、財務省のADAMS IIとの連携部分である。

「支払いが遅れるとか、誤払いがあってはなりません。間違いなく処理できるか不安もあり、プレッシャーを感じました。そのため、SE*3の方と一緒に財務省の財務会計センターに行き、テスト環境の打ち合わせを行い、10回以上テストを繰り返すなど、細心の注意を払いました」(須田氏)。

今回のシステムでは、CRMateに入っている各酪農家の奨励金交付のための情報をCSVファイルとして出力し、ADAMS IIに取り込めようとした。ファイルの形式や連携の仕組みなど、富士通のSEの専門的なサポートが作業負担の軽減に非常に役に立った

と須田氏は語る。同じように、家畜改良センターからの個体識別情報の取り込みでも富士通のSEが支援を行った。

そのほか、地方農政局から各酪農家に通知する交付決定通知書もCRMateから帳票出力できるようにした。

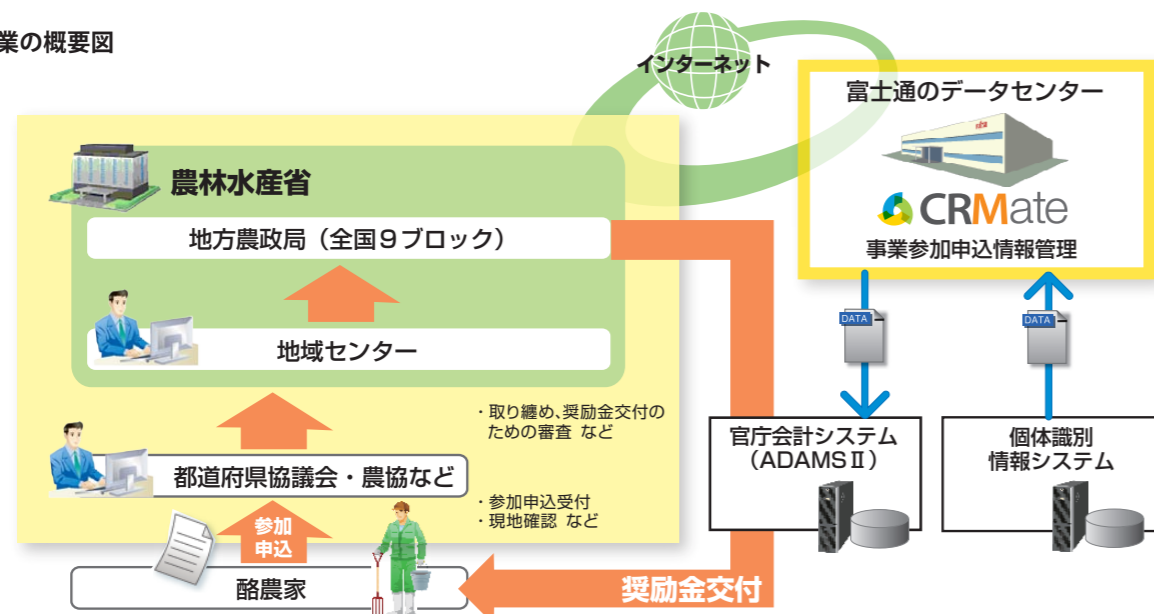
*3 SE: Systems engineer (システムエンジニア)の略。コンピュータシステムの設計やシステム開発の実施、それらのプロジェクトの管理などを行う技術者のこと。

データは一元管理され欲しい情報がどこでも見られる

申込書を提出し、環境負荷軽減の取組を実践する酪農家数は、2012年1月現在で数千戸単位にのぼっている。これら個別のデータや奨励金交付のための口座番号などをすべてADAMS IIに登録するという作業を手作業で行っていたら、膨大な時間と手間がかかっていたらろう。最終的にシステムの導入は大きな効率化をもたらした。加えて効果が大きかったのが、データが集約され一元管理されているため、欲しい情報がすぐに見られるということだった。

「CRMateへの入力、全国の協議会や地域センター等で行われますが、入力した情報が東京の農林

■事業の概要図



水産省でもすぐに確認できますし、パソコンとインターネットの環境があれば、出張先からでも見ることができます。それは従来の紙のやり取りではできない大きなメリットです」(須田氏)。

どんな情報が集まっているのかをリアルタイムに確認できるというのは、システム化したからこそ可能である。各協議会や地方農政局などでも、管内の情報がすぐに確認できるので、管理しやすくなったと評判も上々のようだ。

掲示板を利用し、伝達事項やマニュアルなどの情報を共有

さらに掲示板機能を使い、情報共有なども図っている。

「これまでは伝達事項があると、メールによりリレー方式で末端まで送っていました。そのため、時間がかかりますし、その都度メールを確認する手間もかかります。それに比べ、掲示板を利用すれば確実に一瞬で情報が共有できます」(須田氏)。

掲示板には事業の要綱、要領、パンフレット等のほか、システム自体のマニュアルも共有しているので、操作などでわからないことがあった場合、問い合わせをしなくても掲示板を見れば、その場で解決できるような工夫も盛り込んだ。

また、同じ情報を見ながら進捗状況の確認や連絡ができるようになった。修正があった場合もタイムラグがなく、修正された瞬間に全員がその情報を共有できるのでミスを防ぐことができる。システム化は単に導入コストや作業の省力化だけでなく、様々なメリットをもたらしているようだ。

蓄積した貴重な情報を次の施策にも活用していきたい

「これまでもシステム投資には費用対効果が強く求められていましたが、最近ではさらに厳格になってきています。一方で、情報の管理やサービスの質は当然ですが常に高めていく必要があります。そういう中であって、CRMateのようなクラウドサービスは今後も非常に有効だと思っています。今のシステムを発展させ、現地確認に役立てる、あるいは酪農家の方が直接入力できるようにするといった利用の幅を広げていければと考えています」(須田氏)。

現行の支援事業の活用とともに、CRMateに情報が蓄積されたことで、蓄積した情報を活用した新たな展開も可能になった。たとえば、実際に事業に参加した酪農家は、どれくらいの飼料作物作付面積を持っているのか、どれくらいの経産牛を飼っているのか、環境負荷軽減の取組の中では、どの取組が一番多かったのかといったことも検証できるようになったのである。

「支援事業は、酪農経営から大きな期待を寄せられている事業です。われわれとしても、状況に応じて支援の形を見直し、新たな施策を進めていかなければなりません。集まった酪農経営の実態データは、なかなか手に入らない貴重な情報です。これらは、より酪農経営の現状に即した次の施策を企画していく際にも必ず活用していけると思っています」(武田氏)。

今回、CRMateで集められたデータを基盤として、今後の施策の企画・立案等へと利用を広げていければ、さらにコストメリットも大きくなるだろう。環境負荷軽減をはじめ、畜産・酪農経営の安定化を支援する様々な事業の推進に、システムの果たす役割は今後も一層高まっていくことになりそうだ。

(山田稚佳子)



User Information

農林水産省
所在地 / 東京都千代田区霞が関1-2-1
URL : <http://www.maff.go.jp/>

※記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。
※記載されている肩書きや数値、固有名称等は取材時のものです。

■製品・サービスについてのお問合せは
富士通コンタクトライン (総合窓口)
受付時間 9:00~17:30
(土・日・祝日・当社指定の休業日を除く)
富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
CRMate / お客様接点力のホームページ
<http://jp.fujitsu.com/crmate/>